



国の改革は地方から

## 東日本大震災発災から4年、阪神淡路大震災から20年



阪神淡路大震災（神戸市長田区）被災から4か月後、二度目の現地入り

今年3月11日で、東日本大震災の発災から、4年とになります。そして本年は、1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災から、「20年」という節目の年でもあります。

死者6434名、全壊家屋10万棟以上、全焼家屋は7千棟と、当時戦後最大の地震災害となりました。神戸市を中心に、住宅が倒壊し、延焼した火災は、何日も消えることなく燃り続けました。

この阪神淡路大震災は、我が国における防災対策の大きな分岐点になりました。この災害を契機として、自衛隊の自主派遣体制が確立しました。全国から消防や警察が、応援に入りましたが、当時、受入れ態勢は十分ではなく、その後、緊急消防援助隊や警察緊急援助隊が創設されました。

### 被災支援が原点

「1995年1月17日」、20年前の早朝、テレビ画面

### ボランティア

その後、私も支援ボランティアの一人として、現地（被災地）入りしました。

必要物資が圧倒的に不足する状況を目にし、調べる「全国から届く物資」も大阪等近郊で止まっている状況でした。「ポトルネット」を認識しながら、適切な配給手法も認識されず、適所に配布する人材も全くない状況でした。

私は、現地で指揮を執る友人のアドバイスに添っての手伝いを夢でしました。

### 再度被災地へ

一度厚木に戻り、4か月後、ワゴン車に物資を積み

では、横倒しとなった阪神高速道路が大映しになり、倒壊した街のそこかしこから、煙が立ち上る光景が中継されました。

翌日の新聞では「神戸市東部から芦屋市にかけて、阪神高速道路が、約500メートルにわたって横倒しになっている写真」が一面を飾りました。



2011年5月21日 震災被災地ボランティア



2012年3月17日 行政視察（宮古市・女川町）

現地入りしました。当時の私は、調理師をする傍ら、外国（アフリカ諸国やタイ王国）に物資を送る活動をしてきたが、他民間NGO団体の協力も頂き、リネン（シート）を中心に数千枚被災地へ送りました。

### 津波被害支援スリランカへ

この時の「想いと経験」を忘れず、その後、地方政治を取りつつ、物資輸送を続け

その後、2004年12月26日、28万人以上の犠牲者を出したスマトラ島沖地震の現場にも入りしました。

### 消防団へ入団

こうした震災や津波被害の現場での活動経験が政治を志す原点であり、厚木市議員当選後、地元消防団に市議のまま入団した理由もそこにあります。市議

友人の国務大臣（当時）ワジラ・アベイルダナ氏と共に被災地を廻り、支援に向き合いました。

## 戦後70周年

今年「戦後70周年」となる節目の年です。先の大戦では、神奈川県でも多くの県民が、戦争の犠牲となりました。

下古沢で生まれ育ち、戦争（トラック島で終戦）を経験した帰郷兵でした。日本軍も見放したほど激しい戦争が繰り返された地で、戦争を戦った祖父



2014年8月27日 「神奈川の塔（沖縄）」建替え

で命を落とされた。亡くなるまで、かの地で戦友の事を思い続けました。戦死者の多くは、苛烈を極めた戦いの中で、ひたすら祖国の安泰と繁栄を願い、最愛の家族を案じながら、心ならずも遠い

争を戦った祖父が少なくありません。黒岩知事へ要請

県議会でも我が団の代表質問で黒岩知事に対し、戦後70周年の節目にあたり戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代へ継承する施策の実現を強く求めました。

黒岩知事からは、「戦争を二度と繰り返してはいけない」ということを伝えていくのは私たちの責務だ」との答弁がありました。

### 恒久平和の実現

私たちは、悲惨な戦争の惨禍を忘れないよう、次世代にしっかりと語り継ぎ、世界恒久平和の実現を創り上げる責任があります。

一方で、戦争を体験した方が高齢化し、戦争を語る方が少なくなっています。

## 「県政アンケート調査」結果

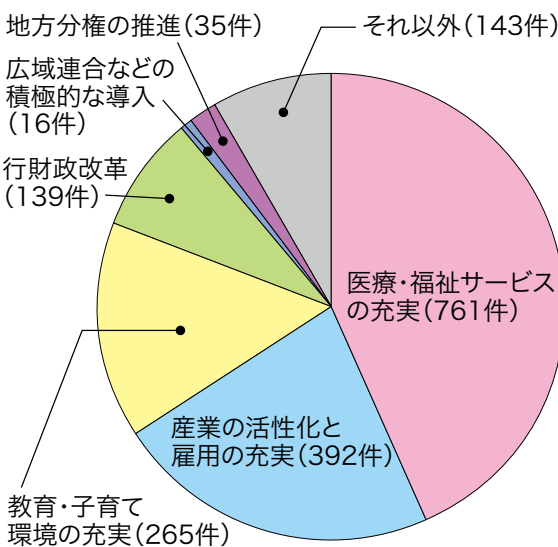
過日、「県政アンケート調査（電話等）」を厚木市内の住民を対象に実施致しました。ご協力頂きましたご意見については、予算委員会審査等の参考と致します。

これまでも電話や政策チラシ「月刊さとう」「プレス民主号外」等を用いたアンケートを定期的に行って参りました。

今回の調査は2回行い、1回目の有効回答件数は1751件でした。（2回目は集計中）多くの方々にご協力頂き、感謝致します。

県政に対する御意見は、公式HPでも随時受け付けています。御意見・御要望は、議会を通じ、県政に反映させて頂きます。

### 第一問：神奈川県行政で何を積極的に取り組むべきだと思いますか？



その他項目については、世論調査の分析を行う加藤和磨氏にコメントを頂きました。一部を紹介します。「アンケート結果からの分析と他地域との比較ですが、非常に佐藤議員の活動が、厚木市において浸透していると言えます。民主党支持層に加え、自民党の支持層や支持政党なしの方からも、支持率が比較的多くあります。また、女性人気も高いと言えます。特に民主党議員の場合、相対的に女性支持が低い傾向がありますが、今回の佐藤議員の調査では、支持率が高くあります。

回答件数においても、他地域での同手法のアンケートに比べ、2割以上多くあります。この点からも佐藤議員の活動が厚木市にて浸透していると見られます。（加藤和磨氏）」



### 常に対案を示す

民主党県議団 副団長 さとう知一

#### 社会保障と福祉

11月12日 神奈川県社会福祉審議会(民生委員審査)に県会推薦委員として再任されました。県の社会保障施策の要となる役職です。様々な理由で生活に困窮し社会的に孤立するリスク

#### 高の方達を支援します。当事者と共に

私自身も知的障害を持つ家族がいる中で育ちました。ともすると障害者福祉は家族の意向ばかりが、先行してしまいがちです。「障害を持った当事者が

#### 納得した上で、社会で充実した人生を送れる」ことを常に心がけるべきです。

障害者福祉に関わる一人として、しっかりと肝に銘じ、県議会で頑張ります。

#### 歴代最年少・最少当選回数(二期)で、副議長に就任

させて頂き、県議就任後は会派副団長に就任しました。新人県議が大会派の次席副団長を経験することは極めて稀で、二年連続は、おそろく例がありません。市議会・県議会を通じ、

#### 政策重視を貫く

佐藤知一は「早稲田大学大隈塾フェロー」「慶応義塾大学SFC研究所上席所員(訪問)」として政策研究をしていきます。早稲田と慶応が誇る最先端の研究施設や知的資産を活用し、県議会議員として、自治体の政策法務にあたりています。

#### 次の県議会へ

厚木市議会議員時代には常に対案を示し、政策実現に努めて参ります。



2014年11月24日  
ダイコン畑の前

早稲田大学 大隈塾  
田原総一郎(塾頭) 80歳祝い

神奈川県議員 ともかず  
さとう知一

sato-tomokazu.com

H15 厚木市議初当選、H19 市議再選。第61代 副議長等、要職を歴任。H23 県会議員当選。慶応大学SFC研究所上席所員、早稲田大学大隈塾フェロー

この記事はタウンニュース厚木版 2014年12月12日号に掲載したものです。

### 価値ある未来を創る

民主党県議団 副団長 さとう知一

#### 通算150号

(総発行部数1775万部)と節目を迎えました。タウンニュースへの議会活動報告の投稿・掲載は、政治を志した時から、長く続いています。市議時代は年6回、県議就任後は隔週で、ご掲載頂いております。今回で、通算150回目

#### 市議時代から毎朝続ける街頭演説も本日で1932日(実数)となりました。

プロク活動報告も13年と4か月、一日も休まず更新し、全て丸ごと公開中です。貫く「雑草魂」

#### なれば、官僚や公務員の出身でもありません。

高卒から海外経験をした私は、調理師の仕事(稼業)をしながらスリランカ等に職業訓練校を建てるNGOを組織しました。当時は未熟な英語を駆使し、日本にいる留学生への支援活動も積極的に進めていました。

#### 大学三年生時に厚木市議に当選し、厚木市の学生議員となりました。

その後、歴史最年少で厚木市議会副議長に就任しました。当時は、議員年金の廃止を決める大事な時期であり、得難い経験をしました。いつの時代でも「社会を変えるのは若い力」です。

#### 数字でみる佐藤知一

(2014年11月28日現在)  
早期街頭演説日数 通算1932日(実数)  
ブログ更新日数 13年3ヶ月28日  
ツイッターフォロワー 11万8572人  
タウンニュース掲載回数 通算775万0050部  
タウンニュース活動報告掲載回数 通算150回  
献血回数 156回(16歳から継続中)



今も現役消防員  
火災時も消火活動に出動

21年前に受けた取材です  
(1993年5月14日号)

神奈川県議員 ともかず  
さとう知一

sato-tomokazu.com

H15 厚木市議初当選、H19 市議再選。議運委員長、第61代 副議長等、要職を歴任。H23 県議会議員当選。慶応大学SFC研究所上席所員(訪問)等兼任。

この記事はタウンニュース厚木版 2014年11月28日号に掲載したものです。

### ブれない政治

民主党県議団副団長 さとう知一

#### 政治への信頼

私たちが議員は情報公開と説明責任を果たし、信頼を

#### 媚びない政治

これまででも議場であって臆することなく筋を通して発言し「媚びない政治」を

#### 現場主義を貫く

政治に対する「信頼」が問われている今だからこそ日々の活動が問われます。地道な活動の継続が大切

#### 厚木の医療課題

重要性は増えています。失敗を恐れず、政策実現を第一に副団長として厚木の県政課題解決を努めます。



「予算委員会」会派代表し登壇(ノーカットテレビ放映)

神奈川県議員 ともかず  
さとう知一

sato-tomokazu.com

この記事はタウンニュース厚木版2015年1月1日号に掲載したものです。

「現場主義」：毎朝行う街頭演説は、通算1948日目。議会では常に対案を示し、政策実現に努めています。厚木市寿町1-2-3-101 (電話:070-6407-3910)

### 写真で振り返る2014年 活動報告No.153



2014年8月2日 第68回 あつぎまつり 開会式挨拶・テープカット

あつぎまつり「パレード」

### 「殺処分ゼロ」実現

民主党県議団副団長 さとう知一

#### 花火大会警備

センターでは、多くの団体や個人がボランティア登録

#### 動物愛護施策

動物の愛護と適切な管理を行ってまいります。翌朝5時(危害や迷惑の防止等)を

神奈川県は、平成25年度 動物愛護センターに収容された犬の殺処分ゼロを達成しました。県動物保護

この記事はタウンニュース厚木版2014年8月22日号に掲載したものです。